

報 告 書

－協働事業評価制度の導入について－

新宿区協働支援会議

平成 18 年 3 月 27 日

新宿区長 中 山 弘 子 様

協働事業評価制度について次のとおり審議しましたので、報告します。

協働支援会議委員

	委員の区分	氏 名	備 考
1	学識経験者	座長 久塚 純一	早稲田大学社会科学部教授
2	非営利活動団体構 成員	代行 宇都木 法男	NPO 事業サポートセンター専務理事
3	非営利活動団体構 成員	鈴木 歩	シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 事務局次長
4	区民（協働推進計画 策定公募区民）	小原 聖子	区民（協働推進計画策定公募区民）
5	事業者	伊藤 清和	東京ゼロックス（株）CSR部社会貢献推進グループ
6	新宿区社会福祉協 議会職員	芦沢 ひろみ	新宿区社会福祉協議会 ボランティアセンター課長

※名簿の順 は、要綱に規定する区分の順による。

はじめに

平成16年3月に「新宿区・地域との協働推進計画」が策定されました。計画の「基本目標」と「基本原則」に掲げられているように、多様化した区民ニーズに対応するためには、多様な主体が、相互に対等な立場で、主体的に参画することが求められます。そして、これらのことを具体的な場面で実現するためには、「情報の公開」と「第三者による事業の評価」が不可欠です。これらによって、新しい公共空間が作られていき、さまざまな人々が、「自分も、社会の構成員として生活しているのだ」ということを実感できる関係が再構築されることになります。

「協働」というものが持っている性格から考えると、「協働」とは、固定化した形式的なものとしては存在しえず、常に、よりよい方向を目指すという性格を内包させたものとして存在しているものだといえます。そのためにも「評価システム」が必要であるといわれるわけですが、じつは、「協働」にとっての「評価システム」とは特別なものではなく、いわば、「協働」というものの自体が内包しているものであり、真に「協働」を推進しようと考えるのであれば、当然の結果として導き出されるシステムなのです。

評価のステージは、たとえば、問題発見、事業の計画、実施、効果の測定にいたるまで、全般にわたることが必要であり、それぞれのステージについて「協働」の理念を念頭に置いた評価項目が設定されることが求められます。

「協働」が新しい試みであり、蓄積された経験が限定的であることから、「評価システム」の確立には、いくつかの課題があることでしょう。しかし、真の意味での「協働」を推進するためには、「協働事業評価制度」の確立が不可欠であることから、新宿区においては、早急に「協働事業評価制度」を導入されるよう希望する次第です。

新宿区協働支援会議座長

久 塚 純 一

1 導入の目的

平成16年3月に、区では、地域のさまざまな課題に対し、区民・地域団体・ボランティア・NPO・事業者など、地域社会を構成する多くの人たちとのパートナーシップを基本に、ともに考え解決していくための、「新宿区・地域との協働推進計画」を策定しました。

「新宿区・地域との協働推進計画」のなかでは協働を進めるうえでの3つの基本目標と6つの基本原則を掲げています。

<基本目標>

- 1 多様で新たな区民ニーズへの対応
- 2 区民の参画意識と主体的な区民活動の促進
- 3 行政の体質改善

<基本原則>

- 1 相互理解
- 2 自主・自立性
- 3 対等の関係
- 4 目的の共有
- 5 関係の公開
- 6 関係の見直し

新宿区では、各主管課において多様な主体と様々な協働事業が進められ、17年度の協働事業進捗調査では、121におよぶ事業が様々な協働形態で行われています。

しかしながら、それぞれが事業の中で、あるいは事業終了後、客観的に評価されている事業は多くはありません。実際に行われている協働事業が具体的にどのような形でこの計画の基本目標を達成しようとしているのか、また、基本原則は十分踏まえたものになっているのかを客観的に評価しながら、実施の場面で改善につなげていくことが必要です。

協働の中身・質を高めていくためには、お互いにそのプロセスや成果を議論しあって、ひとつひとつ経験を積み重ねていくことが大切です。そのための協働事業の評価基準を定め、実施された事業を客観的に評価し、その課題を改善していくことが大変重要です。

協働支援会議において、その具体的な評価のあり方についての考え方をまとめると同時に、「ふりかえり」の道具として「協働事業チェックシート」を作成しました。このシートは事業課とNPOのそれぞれが評価をすると同時に第三者評価を取入れたシートになっています。おのおのが、チェックしながら、次の協働事業の検討に活用していくものです。また、この「協働事業チェックシート」は今後、協働事業の評価を進めるなかで、より適正な評価ができるように随時見直していくことも重要です。

2 協働事業評価の目的

協働すること自体が目的ではありません。協働することの意義を明確にするために次のとおりその目的を設定しました。

- ① 区民にとって選択性のある、柔軟で効果的な事業を実施するため
- ② 協働を進めるNPOと区が相互理解を進め、対等な関係を築くため
- ③ 区民の主体的な活動を推進しコミュニティの形成につなげるため
- ④ 前例の踏襲や組織の縦割りの弊害など、これまでの区の仕事の内容や進め方を見直すため
- ⑤ 様々な主体の自立性を高め役割分担を明らかにするため
- ⑥ 協働事業を発展させ、住民福祉の維持向上に役立たせるため
- ⑦ 住民ニーズに基づく予算化の優先順位をつけるための判断基準にいかされるため

3 制度の概要

協働事業を行う相互の担当者が評価を行い、その評価をもとに第三者機関が両者にヒアリングをし、第三者評価書を作成する。また、受益者の評価はアンケート等で把握する。すべての評価については公表とし、事業の透明性を図り、更なる協働に結びつけていきます。

① 事業実施後の評価

協働事業実施後においては、具体的なサービス内容の目標を達成できたか、役割分担は適当であったかなど、資料で添付した「協働事業評価シート」を利用した評価をすることが重要です。

② 評価の視点

協働の評価項目の中に、NPOの特性を活かしたか、協働の形態や協働相手の選定方法は適切だったかなどの項目を入れました。

③ 評価結果の活用

評価の結果、課題が明らかになった場合には、協働事業の検討・実施の場面で改善していかなければなりません。

＜評価項目＞

- ・ 目標設定の妥当性・達成度
- ・ 採用した協働形態の妥当性
- ・ NPO がもつ特性の発揮度
- ・ 情報交換など意思の疎通度
- ・ 受益者の満足度
- ・ 費用対効果 など

4 評価の流れ

- ① 協働事業の対象とする相手
特定非営利活動法人（NPO 法人）と市民活動団体・ボランティア団体の社会貢献活動団体（NPO）など
- ② 対象とする事業
ア 区から NPO への委託事業（協定書によるものも含む）。
イ 区民・地域団体・NPO などにより構成される「実行委員会」「協議会」と区との協働事業（区も構成員の「実行委員会」「協議会」も含む）
ウ NPO と区との協働（共催）事業
- ③ チェックする人
ア 協働を行う担当者（区だけでなく NPO との双方で行う）
イ 第三者評価は当事者以外の第三者機関が行います。平成 18 年度においては協働支援会議がその役割を担います。
- ④ チェック後、お互いが意見交換を行い、課題を洗い出し、改善の道筋を明確にします。
- ⑤ お互いのチェックシートをもとに第三者機関の評価を受けます。
- ⑥ 第三者機関は双方の意見を聴きながらより深い議論を行い、意見を集約し、協働事業評価書を作成します。
- ⑦ 事業者双方の評価シートおよび第三者機関の評価書については、広報、ホームページ、パンフレット等により、広く区民等に公開していきます。
- ⑧ 受益者側の評価を受けるために、受益者に対し、アンケートを実施するなどして受益者の声の把握を行います。

5 導入に際しての課題

第三者評価を考えるときに、区民等との協働が行政にとって新たな取り組みです。第三者評価はこれまで経験のないこともあり、協働そのものが評価の対象になったり、事業の費用対効果が基準となったり、政策目的や効果、政策決定の順位などが評価になったりなど、第三者機関が協働事業の評価を行う場合「協働事業評価書」の内容以外にも様々な意見が出されてくるものと思われます。そのため、しっかりとした評価基準の設定をし、その評価基準および評価結果について区民に公開し、行政はアカウンタビリティを果たしていかなければなりません。

6 検討経過

平成16年11月26日第5回協働支援会議にて、事業評価制度の検討が始まりました。

事業評価シートを検討する中で、「子育て支援事業：ゆったりーの」を協働評価のモデル事業として、検討中の事業評価シートでNPO、事業課側に実際に事業についての評価を実施しました。その後、協働支援会議が第三者機関としてそのシートを元に、両者にヒアリングを実施し、この事業についての協働事業評価書を作成しました。

また、このモデル事業を評価しながら、チェックシートの項目や制度の仕組みについても同時に検討を行い報告書にまとめました。

協働事業評価にかかわる協働支援会議の審議経過

会議名	審議開催日	審議内容
平成16年度		
第5回協働支援会議	平成16年11月26日	協働事業評価制度の導入について モデル評価の実施について
第6回協働支援会議	平成17年2月1日	協働事業評価モデル事業「子育て支援事業：ゆったりの」の NPO 側シートについての検討
平成17年度		
第1回協働支援会議	平成17年4月21日	協働事業評価モデル事業「子育て支援事業：ゆったりの」の事業者側シートについての検討
第2回協働支援会議	平成17年6月3日	協働事業評価モデル事業「子育て支援事業：ゆったりの」の事業課及び NPO に対するヒアリング
第4回協働支援会議	平成17年10月21日	協働事業評価モデル事業について協働事業評価書の取りまとめ
第5回協働支援会議	平成17年11月18日	協働事業評価制度の提言に向けて
第6回協働支援会議	平成17年12月16日	協働事業評価制度の提言に向けて
第7回協働支援会議	平成18年2月10日	協働事業評価制度の報告書について

＊第3回協働支援会議は、新宿区協働推進基金助成事業のプレゼンテーション実施のため、協働事業評価制度についての検討はせず。

別添資料

協働事業チェックシート（様式）

協働事業チェックシート（事業課用）

■チェックシート作成者

所属

氏名

■事業名 〔 〕

■事業区分

☐新規事業

☐既存事業の見直し

■協働の形態

☐共催

☐委託

☐実行委員会・協議会

☐後援

☐その他

■事業内容

■事業期間

年 月 から

年 月

☐単年度事業

☐継続事業

■実行委員会・協議会などの場合の構成員

別添資料

協働事業チェックシート

※ここからがチェックのはじまりです。該当する□をチェックしてください、また、必要な箇所にコメントを入れてください。

1 この協働事業の開始のきっかけは？

- ☐①区からの提案による。
- ☐②NPOからの事業提案による。
- ☐③地区協議会（課題別地域会議）など地域活動をきっかけに地域からの提案による。
- ☐④その他〔 〕

この協働事業が始まった経緯を簡潔に記入してください。（どの段階で誰が主体となったのか、この事業を協働事業として決定した理由、経緯など）

--

2 この協働事業は開始段階から協働を前提とした予算づくりと執行体制がありましたか。

- ☐①予算案を作る前から打ち合せなどを行い、柔軟な予算づくりと執行体制があった。
- ☐②予算確定後ではあったが状況を見て見直すなど柔軟に執行した。
- ☐③予算・実施方法等確定後で予算枠でしか執行できなかった。
- ☐④その他〔 〕

3 区（事業課）としてこの協働事業の区民ニーズの把握方法は。

- ☐①世論調査やアンケートなどの調査結果による。
- ☐②NPOや地域団体との話し合いによる。
- ☐③区長へのはがきや区政への提言などによる。
- ☐④ワークショップ・フォーラムなどによる。
- ☐⑤その他〔 〕

別添資料
協働事業チェックシート

- 4 この協働事業の成果目標は何ですか。（区民サービスの向上や区政への区民参画の推進など、協働により何がどの様に変化することを狙っているのか具体的な目標設定を記入してください。）

- 5 この協働事業を実施するにあたって、NPOをはじめ区民の意見はどのように事業に反映されましたか、また、反映されていると思いますか。

①NPOなどの事業実施者の意見

②利用する側の区民の意見

- 6 この協働事業の相手はどの様に決まりましたか。

☐①事業を計画する段階から決まっていた。

☐②課題別地域会議(地区協議会)やワークショップなどの話し合いの中から決まった。

☐③公募によりプロポーザルなどを実施し決まった。

☐④その他〔 〕

- 7 その選定の経緯および選定結果を公開しましたか。

☐公開した その方法は

☐公開していない その理由は

8-1 協働の相手に何を期待していますか。(複数回答可)

- ☐①特定の分野における専門性
☐②地域の実情を把握している地域性
☐③独自の考えで自発的に取り組む先駆性
☐④自主的・自発的に取り組む多様性
☐⑤地域でのボランティア活動の広がりやネットワークづくり
☐⑥その他〔 〕

8-2 協働の相手はその期待した内容が発揮できましたか。

- できたものの上記番号〔 〕
ほぼできたが今後課題を残したものの上記番号〔 〕
できなかったものの上記番号〔 〕

8-3 当初期待していたもの以外の成果があれば記入してください。

--

9 区と NPO の役割分担はどのように決めましたか。

- ☐①区が決めた。
☐②お互いの話し合いで決めた。
☐③その他〔 〕
分担の内容(簡潔に記入してください。)

・ 区側
・ NPO 側

10 事業計画(協定書・仕様書の作成を含む)、収支計画はどのように決めましたか。

- ☐①区が決めた。
☐②お互いの話し合いで決めた。
☐③その他〔 〕

別添資料
協働事業チェックシート

1 1 事業の進捗状況や事業に関する情報の共有はどのように行っていますか。

☐①定期的に行っている。

☐②必要に応じて行っている。

☐③行っていない。

行っている場合の共有方法 []

1 2 事業内容の報告をつくり公開していますか。

☐①事業内容の報告を受け公開している。

☐②事業内容の報告を受けているが公開していない。

☐③報告を受けていない。

公開している場合その公開方法

[]

1 3 協働の相手との成果目標の達成度などの話し合いは行っていますか。

☐①定期的に行っている。

☐②必要に応じて行っている。

☐③行っていない。

1 4 事業課として受益者（区民等）の満足度はどのように把握しましたか。

☐①事業課として別途アンケート等の実施などを行っている。

☐②NPOからアンケート等の実施結果などの報告を受けている。

☐③特に行っていない。

☐④その他 []

1 5 今後の課題の把握および共有はできていますか。

☐①お互いに把握・共有している。

☐②ほぼお互いに把握・共有している。

☐③把握・共有できていない。

☐④その他 []

1 6 今後の課題はどのようなことですか。

①協働の仕組みに関して

②協働事業の内容に関して

③その他

別添資料
協働事業チェックシート

1 7 改善すべき内容の把握はできていますか。

- ☐①お互いに把握・共有している。
☐②ほぼお互いに把握・共有している。
☐③把握・共有できていない。
☐④その他 []

1 8 改善すべき内容のポイントは何か。

- ①協働の仕組みに関して
- ②協働事業の内容に関して
- ③その他

■お疲れさまでした何かご意見ご感想がありましたらコメントをお願いします。

協働事業チェックシート（NPO用）

■チェックシート作成者

団体名

氏名

■事業名

■事業内容

--

■事業期間

年 月 から 年 月

■実行委員会・協議会などの場合の構成員

--

別添資料
協働事業チェックシート

※ここからがチェックのはじまりです。該当する□をチェックしてください、また、必要な箇所にコメントを入れてください。

1 この協働事業の開始のきっかけは？

- ☐①区からの提案による。
- ☐②NPOからの事業提案による。
- ☐③地区協議会（課題別地域会議）など地域活動をきっかけに地域からの提案による。
- ☐④その他〔 〕

この協働事業が始まった経緯を簡潔に記入してください。（どの段階で誰が主体となったのか、この事業を協働事業として決定した理由、経緯など）

--

2 この協働事業は開始段階から協働を前提とした予算づくりとNPO等からの提案に対して柔軟性がありましたか。

- ☐①予算案を作る前から打ち合せなどを行い、柔軟に対応できる体制が区にあった。
- ☐②予算確定後であったが状況を見て見直すなど柔軟に対応した。
- ☐③予算・実施方法確定後で予算枠が決められていた。
- ☐④その他〔 〕

3 この協働事業の区民ニーズの把握方法は。

- ☐①世論調査やアンケートなどの調査結果による。
- ☐②NPOや地域団体との話し合いによる。
- ☐③区長へのはがきや区政への提言などによる。
- ☐④ワークショップ・フォーラムなどによる。
- ☐⑤その他〔 〕

別添資料
協働事業チェックシート

- 4 この協働事業の成果目標は何ですか。（区民サービスの向上や区政への区民参画の推進など、協働により何がどの様に変化することを狙っているのか具体的な目標設定を記入してください。）

- 5 この協働事業を実施するにあたって、区民（事業の受益者など）の意見はどのように事業に反映されましたか、また、反映されていると思いますか。

- 6 この協働事業の事業者の選定方法はどの様に決まりましたか。

- ☐①事業を計画する段階から決まっていた。
☐②課題別地域会議(地区協議会)やワークショップなどの話し合いの中から決まった。
☐③公募によりプロポーザルなどを実施し決まった。
☐④その他〔〕

- 7 区はその選定の経緯および選定結果を公開しましたか。

☐公開した その方法は

☐公開していない その理由は

別添資料

協働事業チェックシート

8-1 区との協働で何を期待していますか。(複数回答可)

- ☐①対等なパートナーシップ確立
 - ☐②市民活動を促すための広報・普及活動
 - ☐③場所やものの提供
 - ☐④施策実施段階からの協議の実施
 - ☐⑤資金の援助
 - ☐⑥人的支援
 - ☐⑦協働事業に関する情報の提供
 - ☐⑧その他〔 〕

8-2 協働の相手はその期待した内容が発揮できましたか。

できたものの上記番号〔 〕
 ほぼできたが今後の課題を残したものの上記番号〔 〕
 できなかったものの上記番号〔 〕

8-3 当初期待したものの意外の成果があれば書いてください。

--

9 区と NPO との役割分担はどのように決めましたか。

- ☐①区が決めた。
- ☐②お互いの話し合いで決めた。
- ☐③その他〔　　　　　　　　　　　〕

分担の内容（簡潔に記入してください。）

- ・ 区側
- ・ NPO 側

1 0 事業計画（協定書・仕様書の作成を含む）、収支計画はどのように決めましたか。

- ☐①区が決めた。
☐②お互いの話し合いで決めた。
☐③その他〔 〕

1 1 事業の進捗状況や事業に関する情報の共有は行っていますか。

- ☐①定期的に行っている。
☐②必要に応じて行っている。
☐③行っていない。

行っている場合の共有方法 〔 〕

1 2 事業成果の報告をつくり公開していますか。

- ☐①事業成果の報告を区にしているがNPOとしてもホームページなどで公開している。
☐②事業成果の報告区にしているがNPOとしては公開していない。
☐③報告も公開もしていない。

公開している場合その公開方法
〔 〕

1 3 協働の相手との成果目標の達成度などの話し合いを行っていますか。

- ☐①定期的に行っている。
☐②必要に応じて行っている。
☐③行っていない。

1 4 受益者（区民等）の満足度はどのように把握しましたか。

- ☐①定期的に事業者（NPO等）からアンケート等の実施などによる調査結果を受けている。
☐②必要に応じて事業者（NPO等）からアンケート等の実施などによる調査結果を受けている。

- ☐③行っていない。
☐④その他 〔 〕

別添資料
協働事業チェックシート

1 5 今後の課題の把握および共有はできていますか。

- ☐①お互いに把握・共有しているが、課題解決に向けた検討はまだしていない。
- ☐②お互いに把握・共有し、解決に向けた話し合いを行っている。
- ☐③把握・共有できていない。
- ☐④その他 []

1 6 今後の課題はどのようなことですか。

- ①協働の仕組みに関して
- ②協働事業の内容に関して
- ③その他

1 7 改善すべき内容の把握はできていますか。

- ☐①お互いに把握・共有している。
- ☐②ほぼお互いに把握・共有している。
- ☐③把握・共有できていない。
- ☐④その他 []

1 8 改善すべき内容のポイントは何か。

- ①協働の仕組みに関して
- ②協働事業の内容に関して
- ③その他

別添資料
協働事業チェックシート

■お疲れさまでした。何かご意見ご感想がありましたらコメントをお願いします。

協働事業評価書

■評価書作成者

氏名 〔 〕

■事業名 〔 〕

該当する□にチェックと重要度に○を、また必要な箇所にコメントをご記入ください。

1 この協働事業の開始段階について。

☐①適切である。

☐②ほぼ適切である。

☐③不十分であり改善が必要

☐④その他

・上記①～④の評価理由についてのコメント

--

2 この協働事業の区民ニーズの把握方法について。

☐①適切である。

☐②ほぼ適切である。

☐③不十分であり改善が必要

☐④その他

・上記①～④の評価理由についてのコメント

--

3 この協働事業の成果目標について

- ☐①適切である。
☐②ほぼ適切である。
☐③不十分であり改善が必要
☐④その他

・上記①～④の評価理由についてのコメント

--

4 この協働事業の相手の選定方法について

- ☐①適切である。
☐②ほぼ適切である。
☐③不十分であり改善が必要
☐④その他

・上記①～④の評価理由についてのコメント

--

5 その選定の経緯および選定結果の公開について

- ☐①適切である。
☐②ほぼ適切である。
☐③不十分であり改善が必要
☐④その他

・上記①～④の評価理由についてのコメント

--

6 協働の相手への期待とその成果について

- ☐①相互に満足する成果がある。
- ☐②ほぼ相互に満足する成果がある。
- ☐③期待した内容が十分に発揮できていない。
- ☐④その他
- ・上記①～④の評価理由についてのコメント

7 役割分担の決定方法について

- ☐①適切である。
- ☐②ほぼ適切である。
- ☐③不十分であり改善が必要
- ☐④その他
- ・上記①～④の評価理由についてのコメント

8 事業計画、収支計画の決定方法について

- ☐①適切である。
- ☐②ほぼ適切である。
- ☐③不十分であり改善が必要
- ☐④その他
- ・上記①～④の評価理由についてのコメント

9 事業の進捗状況や事業に関する情報の共有について

- ☐①適切であり共有化されている。
- ☐②ほぼ適切であり共有化されている。
- ☐③情報の共有化について不十分であり改善が必要
- ☐④その他
- ・上記①～④の評価理由についてのコメント

10 事業内容の報告作成・公開について

- ☐①適切である。
- ☐②ほぼ適切である。
- ☐③不十分であり改善が必要
- ☐④その他
- ・上記①～④の評価理由についてのコメント

11 協働の相手との成果目標の達成度などの話し合いについて

- ☐①適切である。
- ☐②ほぼ適切である。
- ☐③不十分であり改善が必要
- ☐④その他
- ・上記①～④の評価理由についてのコメント

1 2 今後の課題の把握および共有について

- ☐①適切に共有化されている。
☐②ほぼ適切に共有化されている。
☐③共有されておらず改善が必要
☐④その他

・上記①～④の評価理由についてのコメント

①事業課側

②NPO側

③その他

1 3 改善すべき内容の把握について

- ☐①適切に共有化されている。
☐②ほぼ適切に共有化されている。
☐③把握・共有の意識なし。
☐④その他

・上記①～④の評価理由についてのコメント

①事業課側

②NPO側

③その他

別添資料
協働事業チェックシート

1 4 当該事業実施における受益者（区民）の意見集約について

- ☐①受益者（区民）の意見を、十分反映する仕組みがある。
- ☐②受益者（区民）意見を、ほぼ反映している仕組みがある。
- ☐③受益者（区民）意見を、反映する仕組みがない。
- ☐④その他
- ・上記①～④の評価理由についてのコメント

1 5 総合評価

- A 適切な協働事業として評価できる。
- B 一部改善は必要だが適切な協働事業として評価できる。
- C 協働事業として問題があり、事業を継続する場合は見直しが必要である。
- D 協働事業として評価できない。

総合評価コメント